

きのくに自主防災

第29号 (令和3年12月号)

<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局 (和歌山県庁防災企画課内)

海南市立下津第二中学校が 防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞！

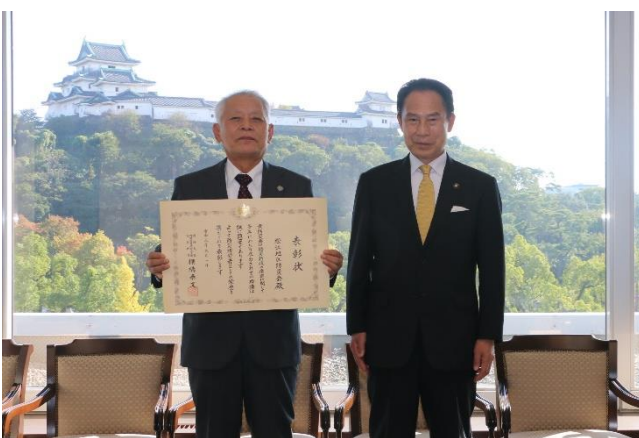
海南市立下津第二中学校は、生徒がボランティア活動に積極的に取り組むことで市民性を身に付けるとともに、地域を知り、将来の災害に対応できるよう取り組んでいます。南海トラフ地震に備え、市や教育委員会と連携し、避難体制の見直しを行ったり、これまで10年にわたり、津波避難訓練や防災学習を積み重ね、中学3年間で生徒が自ら命を守るための知識と行動力を身に付ける取組を実践してきました。

このような取組が評価され、令和3年防災功労者内閣総理大臣表彰を海南市立下津第二中学校が受賞しました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年総理官邸で行われる表彰式が中止となったため、和歌山県庁にて表彰状授与式を執り行いました。学校を代表して油谷 正之 (あぶらや まさゆき) 校長が式に出席されました。



左：細川危機管理監 右：油谷正之校長

松江地区防災会が 防災功労者防災担当大臣表彰を受賞！



左：川口敏夫会長 右：尾花和歌山市長

松江地区防災会は、平成12年6月の発足以来、21年の永きにわたり、地区の防災力及び地区住民の防災知識の向上等防災体制の整備に努めています。また、南海トラフ地震や豪雨災害に備え策定した「松江地区防災計画」に基づき、大規模な防災訓練を継続して行っています。

このような取組が評価され、令和3年防災功労者防災担当大臣表彰を和歌山市の松江地区防災会が受賞しました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年内閣府で行われる表彰式が中止となったため、和歌山市役所にて表彰状授与式が執り行われました。松江地区防災会の川口 敏夫 (かわぐち としお) 会長が式に出席されました。

和歌山市松江地区で防災訓練が行われました

11月3日（水・祝）和歌山市松江緑地多目的運動場広場にて、物資配給訓練が行われました。松江地区防災会では毎年11月前半に大規模な避難訓練を行っています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年につき、規模を縮小し行われました。訓練は朝10時に訓練開始の町内放送を流し、それを聞いた地域住民は自宅から避難場所である松江緑地多目的運動場に避難し、水と食料等を受け取るという内容です。

松江地区防災会は19の地区が集まって構成されていることから、各地区ごとに受付ブースを作り、多くの人が密集しないような工夫がされていました。



参加された方の感想

訓練に参加することで、地域の住民と顔を合わせるきっかけになる。もし万が一大きな災害が起きても、顔を合わせたことがある人が多いと安心するのではないかと思います。

前回訓練に参加したときにももらった長期保存パンがおいしかったから、もらいに来た。散歩がてら気軽に参加できたのがよかった。普段は働いていて、地域の方と交流する機会がないので、良い場だと思う。

子供が生まれたため、今回初めて参加した。最近引っ越してきて、避難場所や避難経路がよくわからなかったため、今回訓練に参加してためになった。

コロナ禍において訓練の実施は大変だと思うが、規模を縮小してでもやるべきだと思う。実際に断水が起きた際に、毎年訓練に参加した経験があったので落ち着いて行動ができた。



和歌山県オリジナルの災害対応シミュレーションゲーム 「きいちゃんの災害避難ゲーム」のご紹介

◎「きいちゃんの災害避難ゲーム」は2つの災害対応の模擬体験ができるボードゲームで、楽しみながら実践的に学べる県オリジナルの災害対応シミュレーションゲームです。

ゲーム1「津波から逃げ切ろう！」では冬場の悪天候の早朝に南海トラフ地震が発生する想定で、事前準備の大切さを学びながら迅速な避難行動を身に付けることができます。

ゲーム2「避難所運営しよう！」ではプレイヤーそれぞれが避難所運営本部の担当班長になり、時系列に沿って避難所内外の課題やトラブルに対応しながら、円滑な避難所運営のために必要となる協力体制をグループで話し合うものです。

◎令和3年度地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」の様子です。

ゲーム参加者の感想

- ★シミュレーションゲームを行うことで、さまざまな問題点に気づくことができた
- ★グループ内でディスカッションすることで、多くの知識を得たり具体的に災害発生時をイメージすることができてよかった
- ★南海トラフ地震が発生するという具体的な設定がされているため、身近に起こるかもしれないというリアルさがあった
- ★子供でも気軽にプレイでき、楽しみながら防災の知識を身に付けることができるため、職場や家庭などで活用したい
- ★このゲームを通して、「防災について学ぶ」ことを難しく考えず、身近に感じることができる



◎「きいちゃんの災害避難ゲーム」は、県内市町村防災担当課室や振興局総務県民課で貸出を行っています。また、県ホームページにゲームの紹介動画やダウンロードできるデータを掲載しています。下記URLをご参照ください。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/kiichangame.html>)

ぜひ自主防災組織や学校での防災教育などでご活用ください！

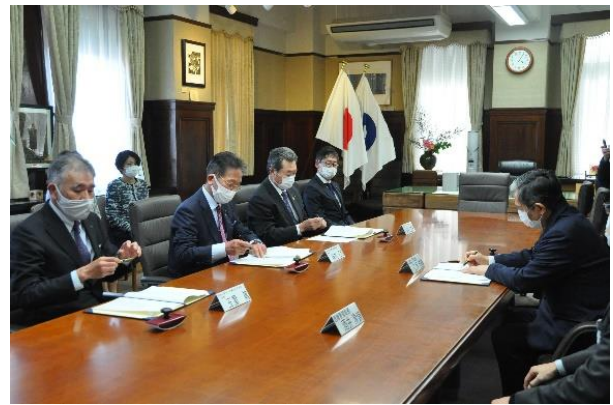


大規模災害時における食材等の供給及び避難所における調理協力に関する協定を締結しました

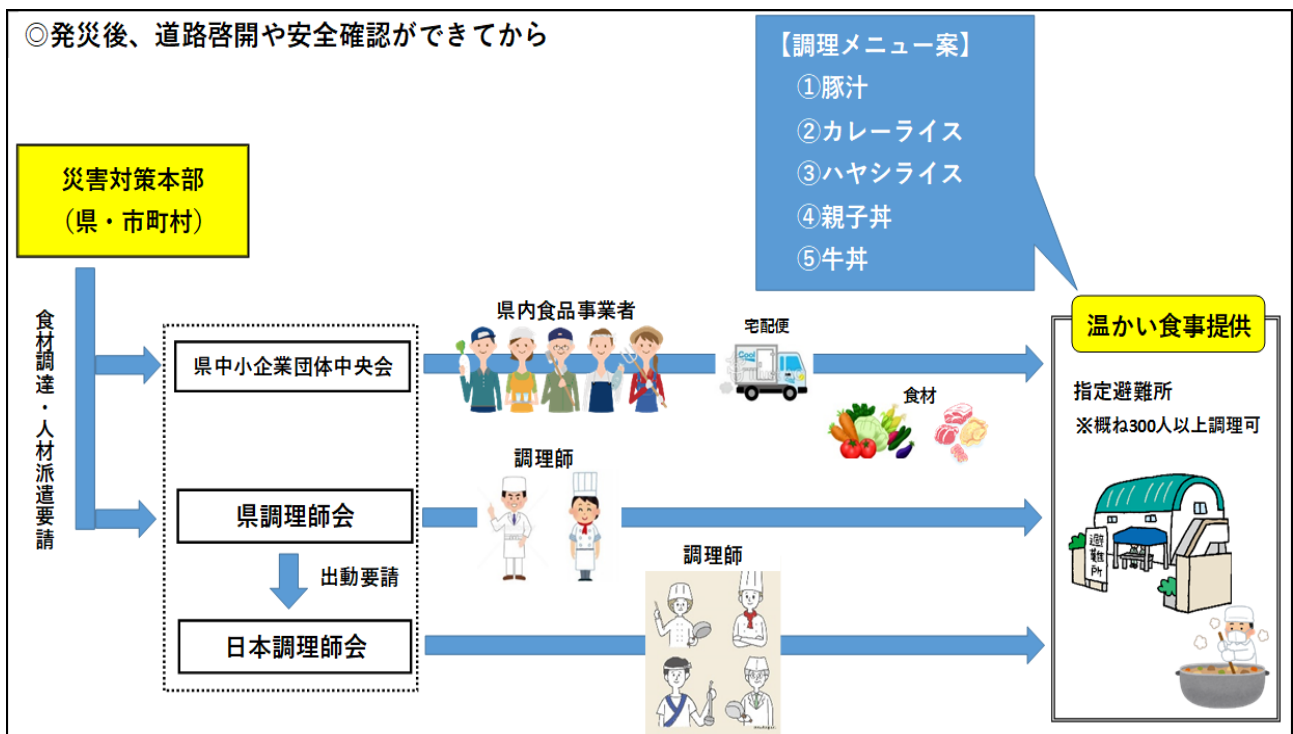
令和3年3月24日、和歌山県、一般社団法人和歌山県調理師会、和歌山県中小企業団体中央会及び公益社団法人日本調理師会は「大規模災害時における食材等の供給及び避難所における調理協力に関する協定」を締結しました。

大規模な災害が発生し、和歌山県が要請した場合には、県中小企業団体中央会が県内食品事業者等が保有または調達可能な食材等を提供し、県調理師会が会員を避難所に派遣し、避難者に食事を提供します。日本調理師会は、県調理師会の会員が不足する場合に近隣府県を中心に広域的な調整を行い、避難所に会員を派遣し、避難者に食事を提供します。

この協定によって、大規模な災害が発生し避難所生活が長期化する場合において、避難者の精神疲労等を癒やす温かい食事を円滑に提供することができるようになります。



協定締結式の様子



毎年6月1日は「自主防災組織の活動の日」

県では、毎年6月1日を「自主防災組織の活動の日」と設定し、5月26日から6月8日までの集中活動期間を中心に、地域での防災学習や防災訓練等の活動を促進しています。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、避難訓練等の活動を自粛する自主防災組織が多く、県も自宅でできる防災活動を推進しました。このような状況で県内の自主防災組織は、こういった活動に取り組まれたのか、紹介します。

最も多く取り組まれた活動は、回覧板・チラシを活用した情報共有です。自宅でできる防災活動などを、地域内で共有した自主防災組織が多くありました。また災害対策基本法の一部改正に伴い、避難勧告が廃止され避難指示に一本化されたことを地域内で共有した自主防災組織もありました。

さらに高野町では、「町民いっせいで地震安全行動訓練」に合わせて「情報伝達訓練」が行われました。役場の職員から町内会長に電話をし、町内会長はあらかじめ設定されている被害の状況や地区内の様子などを職員に伝える訓練です。大勢の人が集まる避難訓練は行いにくい状況ですが、電話を活用することで情報伝達訓練を行った事例です。

コロナ禍において、人が集まるような訓練や活動は行いづらい状況が続いています。これを機に、自宅でできる活動として、備蓄品の確認や避難バックの準備、家具固定、自宅のブロック塀で危険はないかの点検などに取り組んでみてください。一人ひとりが「自分たちの地域は自分で守る」という意識を持ち、そして、地域住民みんなで協力・連携して、防災活動を行いましょ！

自宅で「自主防災組織の活動の日」

県では、毎年6月1日を「自主防災組織の活動の日」と設定し、5月26日から6月8日までの集中活動期間を中心に、地域での防災学習や防災訓練等の活動促進しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、自宅でできる防災活動に取り組ましましょう！

●地域一斉の自宅でのシェイクアウト訓練



●防災学習

<http://www.kantei.go.jp/ip/headline/bousai/sonae.html> (首相官邸ホームページ)

●避難バッグ、備蓄品の準備

・避難バッグ

まず最初に持ち出すべきもの。避難バッグに入る程度の量をひとまとめにし、すぐに持ち出せるよう置き場所を決めておきましょう。携帯電話やスマートフォン、財布、運転免許証など普段持ち歩いている必需品も忘れずに持ち出しましょう。

下線部のものなど、新型コロナウイルス感染症対策用品も追加しておきましょう。

- | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 非常食 | <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ |
| <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> ビニール袋 |
| <input type="checkbox"/> 安全器具(ヘルメット等) | <input type="checkbox"/> 救急医療品 | <input type="checkbox"/> 常備薬 |
| <input type="checkbox"/> 衣類・タオル | <input type="checkbox"/> 雨具 | <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー |
| <input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> ライター | <input type="checkbox"/> 生理用品 |
| <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> アルコール消毒液 | <input type="checkbox"/> 体温計 |
- 等

・備蓄品

避難所に持ち込んだり、自宅でおよそ1週間自足するためのもの。家屋が被災しても取り出せる場所に保管しておきましょう。日頃の食料を多めに買っておき消費しながら備蓄しましょう。

- | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 備蓄食料 | <input type="checkbox"/> 備蓄水・風呂水 | <input type="checkbox"/> 毛布・寝袋 |
| <input type="checkbox"/> 電池 | <input type="checkbox"/> ナイフ・はさみ | <input type="checkbox"/> 卓上コンロ |
| <input type="checkbox"/> 自家発電機 | <input type="checkbox"/> ブルーシート | <input type="checkbox"/> ろうそく・ランタン |
| <input type="checkbox"/> 洗面用具 | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ | <input type="checkbox"/> トイレットペーパー |
- 等

●避難場所や避難経路の確認

防災マップやハザードマップ、または和歌山県防災ナビアプリ(※)等により、自分や家族の避難場所や避難経路を事前に確認しておきましょう。

台風・豪雨時の避難に関しては、頑丈な建物の高い階など、浸水等に対して安全が確認できる場合は、在宅避難も有効です。また、安全な親類や友人の家等への避難も選択肢に入れておきましょう。

※和歌山県防災ナビアプリ:大規模災害時の適切な避難を促進するための防災ポータルアプリです。



無料でご利用いただけます。
(アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は利用者のご負担となります。)



●避難カード

避難場所や避難経路について、家族と話し合いながら避難カードを記入しましょう。

県庁防災企画課、または市町村の防災担当窓口にて配布しております。ご連絡いただければ郵送もいたしますので、ぜひご利用ください。



●家具の固定

L型金具等による家具の固定や、家具の置き方を工夫することで地震発生時の家具の転倒による被害を軽減しましょう。



●ブロック塀の確認

基準に適合していないブロック塀は、倒壊により人的被害や避難路の寸断が発生するおそれがあり、大変危険です。ご自分や地域での安全対策をお願いします。

●さいちゃんの災害避難ゲーム

災害時の迅速な避難行動や日頃からの備えの重要性や円滑な避難所運営のために必要となる協力体制等について楽しみながら実践的に学べる防災学習ツールを作成しました。市町村、振興局の防災担当窓口にて貸出しています。県HPからデータをダウンロードすることもできます。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/kiichangame.html>



「濱口梧陵偉業顕彰シンポジウム」が開催されました

和歌山県が誇る世界的偉人“濱口梧陵”の偉業を、県内外及び海外へ発信するため、11月5日の「津波防災の日」「世界津波の日」に合わせシンポジウムを開催しました。県民文化会館の会場とWEBでのLIVE配信のハイブリッド開催で、2,500人を超える多くの方にご参加いただきました。

当日は女優で作家・歌手としても活躍されている中江有里さん、防災研究の第一人者である河田恵昭先生をはじめ、県立耐久高等学校の生徒や国連訓練調査研究所の海外研修生の発表など、様々な視点から濱口梧陵の魅力を語っていただきました。



関西大学社会安全学部特別任命教授・社会安全研究センター長：河田恵昭先生

＜お問い合わせ先＞
危機管理・消防課(073-441-2273)

◆和歌山県防災ナビアプリ

南海トラフ地震など大規模災害時の的確な避難を促進する防災ポータルアプリです。

近くの避難先の検索はもちろん、防災情報のお知らせや、災害時の家族の居場所が確認できるといった、災害時に役立つ様々な機能があります。

無料でご利用いただけます。
アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は利用者のご負担となります。



＜お問い合わせ先＞
防災企画課(073-441-2271)



◆防災わかやまツイッター

災害時に市町村が発令する避難指示や、土砂災害警戒情報などの情報をお知らせします。

甚大な被害が発生するような災害が予想される場合の注意喚起や、新たな防災に関する取組も発信します。

ぜひフォローしてください。

「防災わかやま」
@bousaiwakayama



＜お問い合わせ先＞
災害対策課(073-441-2261)

「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています

きのくに自主防災では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。自主防災組織の訓練、普段の活動の取組や、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例をご紹介いただける場合は、ご連絡をお願いします。

※紙面の都合によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】 防災企画課

TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652